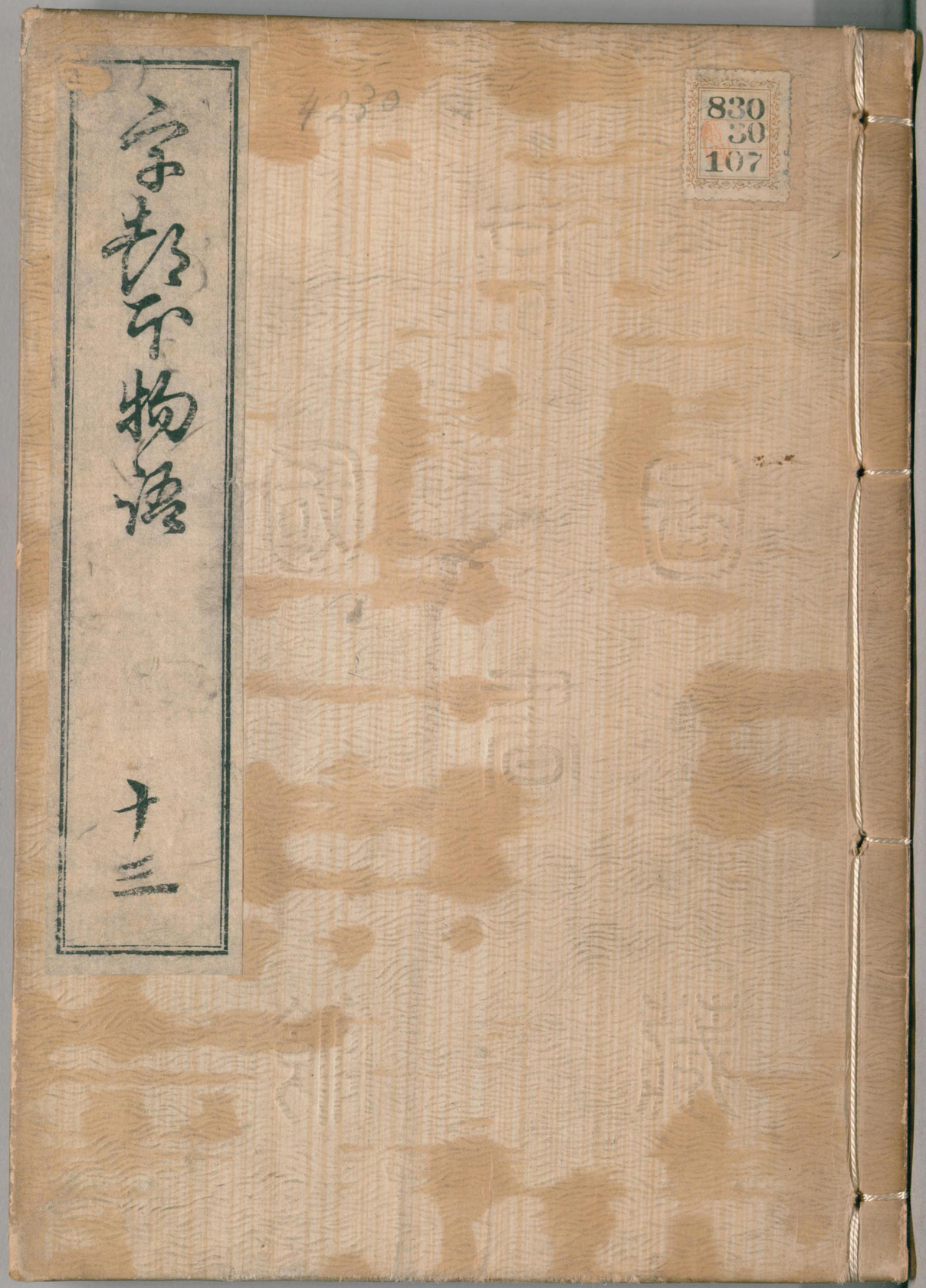


国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
107

宇津保物語

初秋 一

一名ことはりの名月

又 ことしの宮令

内侍の督

十三

今校本十二の巻之三

日本十二の巻

28. 8. 7

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

かく面白くよなよな夜の、すゞしくなりゆくまゝにみかど
上達部御子たちあまたさぶらひ給ひて、その中に
しめやかにて、いとおもしろく御あそびし給ふ。右大将
おもの日にはいと興ありておぼされければ、かく
らうたげにおぼして、こゝのみのまへにも、めづらしくおもほされ
りける。かれこれ、大将殿へまゐりてよしありつれば
御前には、梅つぼにてけふあそび給ふ。上達部・みこたち、中将
三条殿人々の給ふ、それをも御ともにさぶらはるゝは
かつらなどにまうでて、あすはかくて、御車にてまうでたまへば
行きあはれてとまる。兵衛佐世紀、まゐりて御かうし
て待なり、せん中将そむて、いふ

卷十三

内侍 上

相撲

和名抄　漢武故事云角觝丁礼反訓與突同　今之相撲也王隱晋書云相撲撲音蒲角反本朝相撲記有手亜髮總角最手助手等之名別亦有立合相撲長也　下伎也

字典云角觝戯名觝通作六國時所造使兩相當角力相抵觸

漢武帝元封三年作角抵戯○史記李斯傳作觳抵張騫傳作角氐

大正 4. 7. 20 購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

事ぞく和名抄云雑
色立成云粉粥。注云
以米為之今案粉
粥即粉熟也
延喜大膳式ニ克ノ製
ハ見エタリ中ゴロノコトハ
源中最秘抄ニ見エタリ
又近世ノ制表ハソレトモ
コトニコハ別ニ考アレハ略
ツ

粉熟

ようめう
交名事ゝや交名
ゝいそのまゝかゝる
人〻の名符をそへる
もの也かゝる事猶あ
ひらもやすらゝ
サハウ又合すゝ

いよ〳〵ろて
江家次第八相撲條
云次相撲一番自注
最手与助手取之若
有腋共可決之者最
手猶練退大将以
氏注交名勝者上
東書曰助手又曰腋
也最手腋手皆近衛
府各補其人也相撲
人皆近衛之類也

仁壽殿
江家次第相撲の節
の條ゝ仁壽殿東庭
相撲の條あり
詳也そこの裏書曰

仁壽殿有召合抜
出之義

おなゝくいかゝ
ゝれいそ節会のま
ゝ内取のゝしゝ
みて抜出をかゝ
そのかなゝかゝ
さゝやゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ロ加ハ御ノ誤ニ而ありとハ二所ヨリラサスシカナクテハ此二ヶ所通信傳書後梅再拝ニサテ又兼香處ヲ申御トスルハイカヽイフレニモ誤アルヘシ

の君乃れ御ことありてうちとけ
うりとみるうち御やいだ
思ふことうよみ給へ
ありつゝ左大将三条殿
乃女御のおとゝうち
仁寿殿の御息所の
ことうねうさうとて
のうたまへやうくいだ
簾おろしうちとけ
るおほんかたちうつ

ひくうらうでとうんうよこれを
とうの君みてこれはいかゞ
よをうれくめくうたをうう
つゞうる我ぬ大将殿のよ
いとゝうるうし
それよつれくこの殿乃
しまうにびやうをうう
ふとうりてうとうう
あうしおもとうとうて
しうるいとうう
とうてゝ
あうしおもとうとうて

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

をれしてうちねの世ものそ
の女房そうとをそれうそ
そうをうれをうみとゆさし
あそうれはおしうをそうる
まよ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

卅

その駒　催馬楽
いであがこまはやくゆきこせまつち山まつらん人をゆきてはや見ん是ハ万葉十二ニ

このはうとすゑあそびくらの大将殿のみこや
人出来まいりあるじかたかく北の御方よさり
とひいたくそまつれば御たちかへりたまはなく
御前のまへに宰相中将からつもとりて御たちへ
しぬる秋ひとよ北のこなたを御あそびあらそてあり
けさうた女のさやうそくひさうやうちれたり
御しうえにおんなせちのつゆぞにつきまかなそ
うかがはるり　これ殿のうちなるこ殿のたかなあり
もみかせんくらて　わかれにまやこまへくしてま
つはるなほ大将殿八代御ぞの今にひとつたらり
給へ今のりのみやこゆるしてやるむ御わたるへと

とそ久しう給て大将の御きさいのみやとをつくくまいり
給へるよ八中さまの御わかくに殿もそとしていまへり
これにたらいはそてるをなれ給て大将殿よるすけを
きやうなりしつくしてそなかまつてそ殿まいりたよ
おひと海はふくさくうまるもいとひさりてそうちか
ちからかひり中将君からいもとりてうちのたなく
あるしさ給てわそくてる女房あさやきそくひ
とよりひ給く久しう給川大将殿さけハ行くま
てあきにし給その給くもれうてに大将殿よ
さいりてあかつる事をいとくわつて事ひそそ
ゑ給ひのあそまな大将殿よれのすみさひいでにけれ

くさいわうのやまぐにいそてくるまの
しての給こそ。左ちうあるを
よこさまにれをまひつゝまちつゝ
るこの給をつゝみもちてさゝ
けりうく海のかりきれたる
給のあるをとゝ。大将殿
そこれをとりひのこまかにこ
のきをつゝのかくさをよろこ
し。海をつゝてこんちうもうるはしく
てくらんをしたれば。そこをとり
れをもおもひこゝろおやしくも思の

うゝて 寛平菊
合ニ右を左手ときゝ
ううゝて左を
表手ゝゝて右を裏
手ときふたゝび負觀後
弐ニ

たゝなれ（なのめなる仕）
あるを（左の手）と。一のかうはいうゝそ
ゝまゝうゝ第一をこの給をくを
まゝうゝうんてゝゝてのあ
りうるゝゝれすまひたゝ
をゝゝ無論
ゝゝうゝゝいまゝ
ゝうゝゝゝゝゝゝゝ
よまゝれりてをるひゝゝ
おゝうゝゝゝゝ俄
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝてゝゝゝゝゝゝ

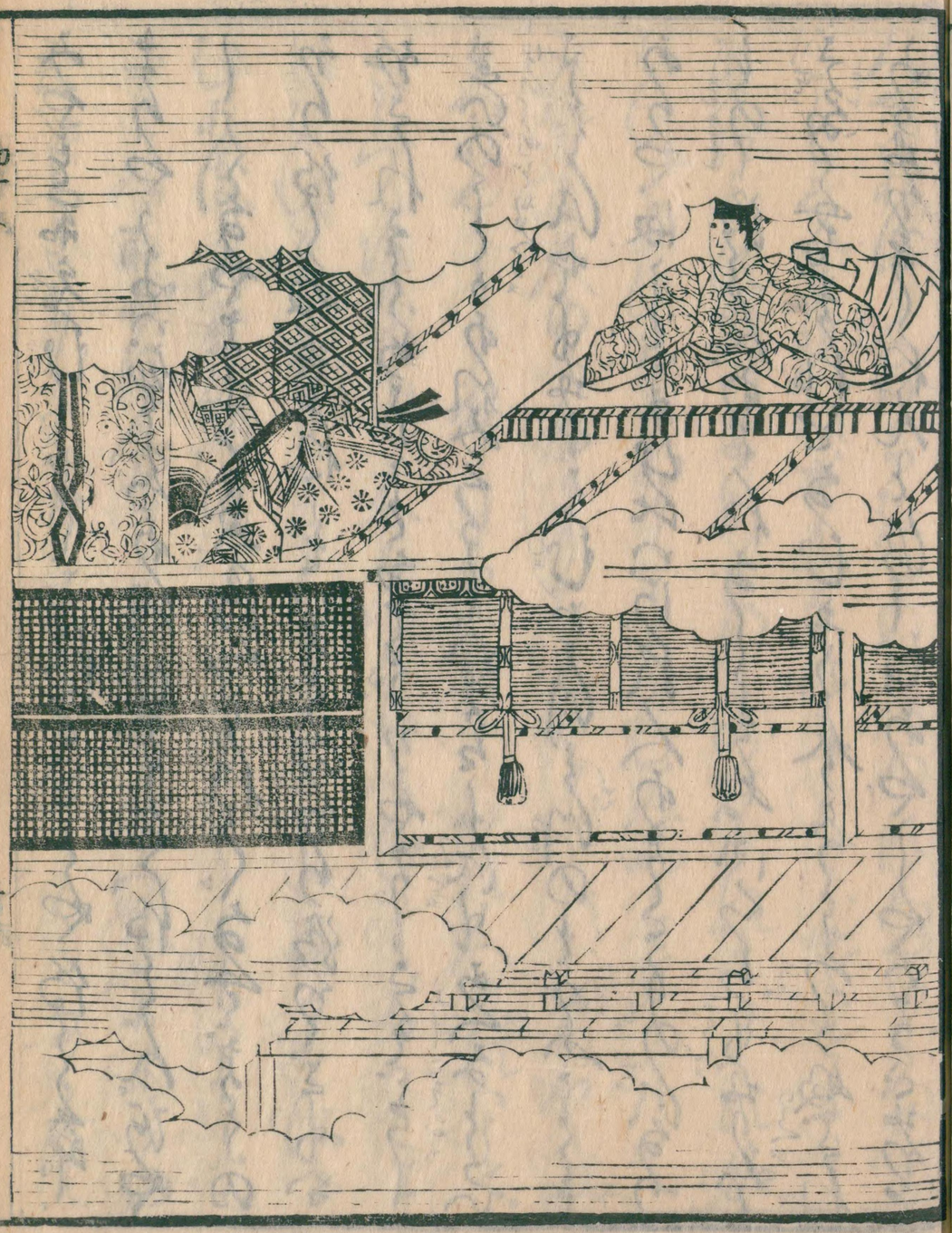
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ひ給ふことかぎりなし。かくしのびやかにひりゆき
つねよりもことにおぼしやりつゝ、たゞおはすをのみをと
まらでこゝろぐるしうおぼしつゝ、ねをのみなきたまふ
そへたまふやうなし。さるべきにつけてこゝぬちを
いとかなしうのみおぼすに、れいしくあてにかはり
よろこびたまふことかぎりなし。いかでかくありえたまふ
をとらちぎりともなりつゝ、さりともひとつにみえ
まじりたまふに、大将殿にも仁寿殿の女御をはじめ
やうごとなき人々も、みなあひ給ふ。大将殿も
あらたなる人々、とのゐ物のよそひ、ちぎり
中納言の、おとゞたちのさぶらひし

ロコレヨリヲ此巻ノハジメト
スベシトイヘリハ初ニイヘリ

ちゝみかど宮のうちにおはしまして、いそぎて見
よろづ給ふそのよしほのかにかくれなくなりてゆけ
ちかうみなり、そのよしを、中のことゞもに中納言
殿の兵部卿宮のこれかけのことみな、右大将
何事につけても、おほかたかくれなう、人々も近く
いかでかくことしもありなむ。宰相中将
なりしよりまさりたる人に、かくしも仲なり
こそよしとおもひつる。右大将のあへてあそびはせて、それに
の大将中納言のこの給へるが。七月ばかりにもなりて
のみこ仁寿殿の大将殿にまゐりたまふのつゐでに
まづは給ふべし。人々も人々も、まゐり給ふとかや

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

みやを初(そめ)(ソメ)て栄(さかえ)(サカエ)ける。
ありやうよりはなやかに。
しくるやまくらの露(つゆ)(ツユ)。
かりねの夢(ゆめ)(ユメ)。さめてのち。
かへれどもかへれども。
ありや。阿こよひ(アコヨヒ)。
その(ソノ)(ソノ)。
さる(サル)(サル)。
あるじ(アルジ)。

あひぬすん人
扨盗人の意をとりてかくはよめるをりふし

人やあらんと。
にてもとらばやと。
つまをとられやしつらん。
これそ人のうへにて。
うんおもふうそ。
然さてなかくしてまた。
ともしうしてそ。
ありやなしやと。
みやこ(ミヤコ)。

古今俳諧哥書風なるものゝ名の立てもてはやすうち

源氏あるを源氏ある詞あり

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

かくもあるかし。この意まくよろこひぬりみちとより
仲忠し時よりさかりふとともやかて舞ととめ人
しもと給ひあふおほれてさかし。いつれのせうかり
うおもこあ院か給しこ。いとねかねかりしかつかり
なれ殿仕のかたいかうちこみ。よろこもとの御そ
むさへかへことありかまむかしられりなきかへろ
なりし。はやしくもの世く御人なりかりと
いろか中かるむいとせちなりいふ人くありとゝさ
かしとなくてこ天下よ絶つくしさんありるむ
女も御遠ちにきこしきしかみえ。文志のかたま
しき人そかし。きこれをいかるよきにみえいかる

ロ吹上ノ下巻神泉苑ノ御幸ニ女一宮ヲ仲忠ニアテミヤラス、シニト定メ玉ヒシニアルヲ此処ニテハ吹上ノ三ニヤノ寸ノコトセリワサトサカナラス居カヘタルニヤ

あらんとかりよかすむ。いとあはくありかくれはな
と。いよくかりか世給いとももる紙それなこれま
しかしはいつくん給こかれあるくこそも。みかはや
ありさむ。こと人ありいはあるすせよ。せまうくは思ひさ
らさりしを。めかりてもさをやときむ。いやは
られと思ひはあやさこしぬれいにめかりしとま
あやうよは思ひきやをぬありえうよあそられなか
こともられ。の中よかはされなに奉といかり
まうかいかき御。く気みえや。にれあそこいれ。よ
さかけのこゝろ。ゝのしうりしみよあすなさてい
せらうよ思ふありけくは。不紙あるくこそいみなりて

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

よさうせ給へとそあるよりものをいとせちうまちいつこ
をそうせ給へやと思ひ給へ
給れとくこと給へとみとそいなひ
ら奥おやしくくよくられあ
のよおとこと給へ
ものいよ奥やいそう給へ
もえさうこと給へくおやし
枕くんらて世も心の事
のあそむえそひうと
とそくられいんこともあるむ
そろうれそれるみり
れの給へことあくる文をかい
うくも思ふ面ぶりのこと
そいれいうくれとそこと
をそうよいみしき世葉ふ
よ人ものよ多彩く私とそ
むみと思給れとくくめ
もねぶれを云ふ
給へいうあるみそれそう
そくおこのあんさくてのうは

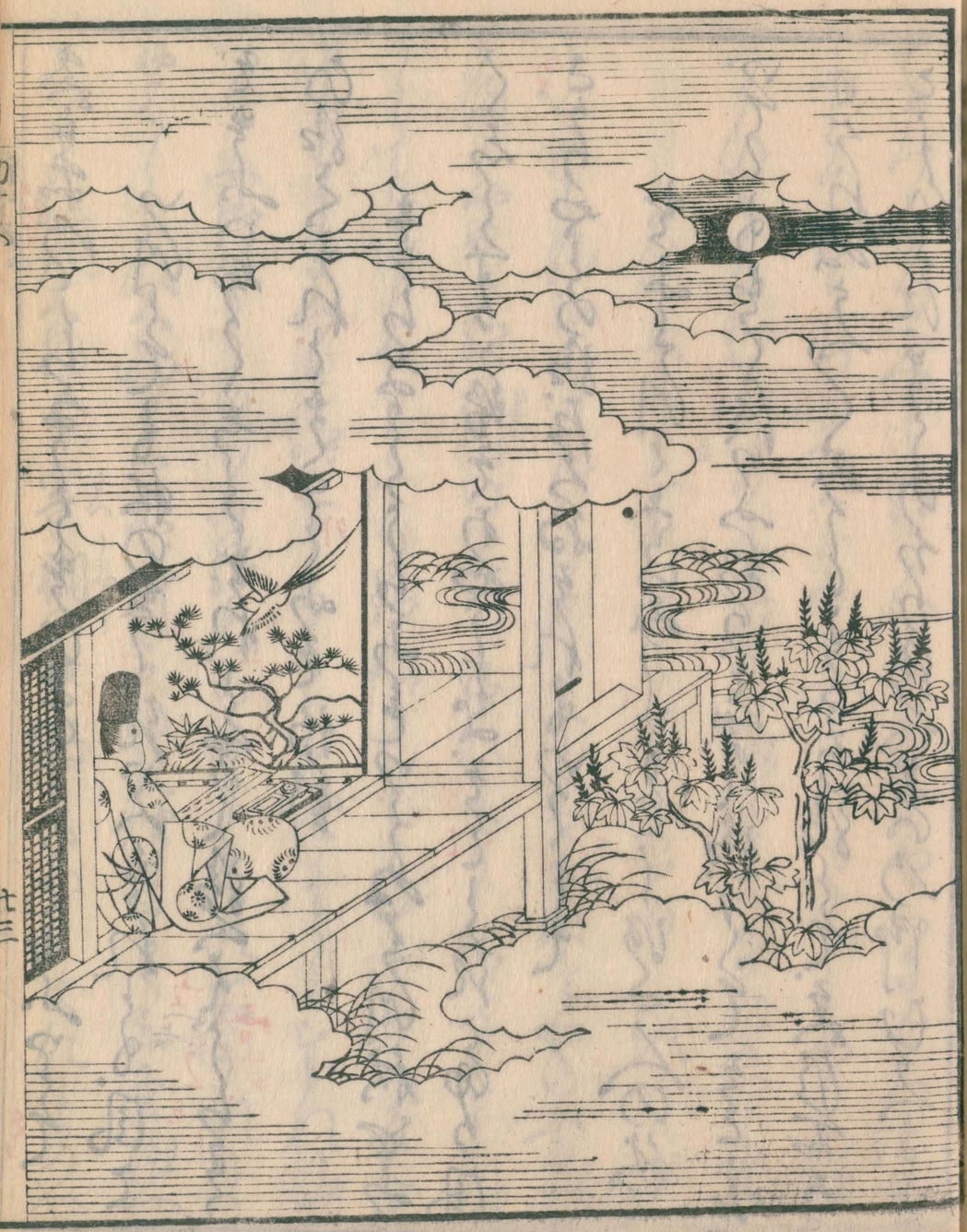
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

なほりくのうむこらめみてしてれみさまいりおそしてぐ
ぐえもゐそくうわさ（ヨさ）ゐ（も）ゐくに（を）ゐそくふ
くに町もそこ（を）ゐそくふとしてふれもまれふれふゆくぐりふと
ふもまれふれふゆくぐりふと（ん）（ま）くさめるへひとゐ（を）ゐそれさめるへ
ゐんくそりこそゐそこをみつこそゐふくへのろ
ゐふ玄文まりれしくいろ（ふ）多我江河のろくさる（ふ）いこよりてこそ
れみさゐをの九日をうくうるむえさそくふ兼こ仰（行）

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

らずよ人みなともかくこえよろこびあへるに、さかしらにては
これはみないたりいとおもしろきありさまなり。おや
のまへにもまうしくみてわたり、思ふさまなるにつけても、と
しくるし。ちかくは海もあしたよりあかぬほとにまうしあけ
ゆふへにいつれんれいのせんりきんゆくへのかはるこ
てまうしあれつかりしこともたいらかくはうて
ありさまはかれたるかたちなとよそにまみしりつゝを
みせしやまとはかゝりかいつれともかくいて出てこ
はかりのねたかきにいたうもてなしにやはらかき筆をかき
逢ひてあまりしていさもこゝしときさらんもあまりとは
う思しまれと絶えるはそこれあるすへしとはせら

ひとりこにて
伊勢物語ニひとつ
子にさへありけれは
いとかなしうし給ひ
けりと云を
ひとつこにいるは
いとあはれなり
ことなるかの
字の誤まれるなるへし
名本は一子ニ
副在計礼者と
ありて仮名をひ
とりこと付たる
をてみるへし
一子と書るより
読誤りし万葉
六市原王悲獨子
哥ニ不言問木尚
妹与兄有云手直
獨子尓有之若者ニとひとりこといふ證之

よの給ひし兄のまことにゆかされとふかきこと
これは中納言のとくしこそあれなとも給ふさまいとくこ
の中納言これまうりかれくしかるさまさくにそなたさ
いつかはひ給ふれとかかせくるくあかりや給ふ
ほとしこそかれしのはかしよりのもとしれはあるへき
こは我かよくきぬえはかすりぬめして姫君そ
られしもしのたちかくいかなるかなとかむ思ひて
さりくめのかさはかゝのたひ日まもかせしれはあり
こゝ出てむ中納言もたかくしての御そきてめいてとらは
ゆかれかさくもるゝをとり海さりたるこれさんへり
しそあるれ、ゆくき筆中納言いはれとはひとゝる

ロスシハ女子マツオスリ
イヒヲセヌレハヨロツフ
フタリスフナケレハヲヒ
ハセカラスオチスト

ロ人ニ勅アリレコトハ
カヘラレントナリ

ロそこそこちてこそそ
イルモ御服ニテ十二
月十二日ノ九ノ

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

さうやく

仁寿殿よさうの妻戸をいと
おもやかにおしあけて
いり給ふをのぞく
しもなどことさらなり

江家次第八相撲召仰の条に出たり次一番自注すいて右先出箸葵花取釼衣置比圓座進立櫻樹下次右出箸瓠花次々番負方先進之云々勝方葵瓠等花並釼衣等稱肖物令是於次番葵瓠花等落時雖勝方風吹入階下者不取不入吹時相撲長一人進取之寂手不依前番勝付花云々東書日葵瓠華造花也とええたりこれいふ中臣よりのうすとこゆ日本紀廿一崇峻紀ヌ聖徳太子の束髪於額をヒサゴハナミミ下と訓しよよりてひさことも いへくおもし

みかともおほんあそひのおもしろくてひさこ花かさしたまふと
いとめつらかなることゝもなりつゝねのことならて
さふらひける人々なくさうそくしたまへるもおもしろくて
これをみそかにさふらひてみかとのおほせことに女二のおほん
むかしおほかりくてその日のおほんあそひにもさふらふ
一の女御おほきおとゝの仁寿殿の女御なりけりこれ
よりいまの女御なり仁寿殿の女御をしこしめし
かるかはりくたまはふたるをはかうしらせたまふ
たまはにいろあしたまふいかにしてあやうきねさ
かすからもいはつるのうちきはうえたりあさこあい
うきねのうちれにそてまうりてさうらふはな

為忠後百首相撲節
スミ出テヒサコ花トルスモヒラサノツキくシクモキサリヨルカナ　為忠
サレカチラナケモフヨリモスモヒラサノヒサコハナトルケシキモツヨ　親隆
タ負ニアラヒノ花ノサシアトスラム　顕廣
ヒテイツレカイロノウテムイツモカトウラテニ出テノウテユレハハツカシケナルタ負ノハナ

こそうれ人よりらんしらく人給ふたにこの文をおもしろの
みこめくさふしい給みかとこの文をみをたいふ大将
ゆかし給ことはられいさう色よもそれをおふゆかしと
おりてさくさいてあるへきとおもらんしらく
御くうらしふ御子ら城くそりて御覧しお
そてしれはいつれもことをゆきかとこ女みく
あるかけよ上かたれこれ女御と大将とさらく
あるむかりたるかあしさわうにそあうまされ
これをかあしあかり給うかんあはれよくく給
さけあふ菓草なるかさうらはを御かふさうりふ
をあれさあれんふ式ゆよらわるとありて給く

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

ロイヒフスルハ左右ノ方人タカヒニ〔タ〕ルヲナカレトカタヲ子イハラヲ云カンスルハスベテ物ヲツヨクイフ鈞之下文ニ〔奉〕テヲ〔冬〕ハリテセメシモ玉ヘハ二源氏帚木ワレタケクイヒシモ侍ハ二明石人ヒニ酒ヒヒソシナトシテ

もろこし人ありけるをせめしかどもたちぬれハあかしふなまし
せ給ふやうしく御今のれいまかひかいにあらず
とかくこそさうしもひあへるのおほやけものさ
ま給ふハ世かれいへおほんとて
ふたゞ宰相らの道よりうゑよミをあへし宮さ
あらしかむかひのいまたいつるそあらぬさへかし
中納言よりさなにかくもしれ。すくうらみ宮
すれすゞろ給へのうれしわたり思ひつゞけて。
かくつ給て
あそこかすくへんかれまみあへてしうえ
てハむかのあやもくみゆむ。とりおくにかゝえ入給へ

してゞかうくもうるを御給へてさ[illegible]くれらし
ゆるか[illegible]給ハのみこ兼雅殿給かしこう。
右大将の君御給ひておやしくなんとのかう給を
の給ゑかくみかしてあかうて宮に給ひして。みなし
さしくひ給うしかしあふらしあかうてのおそむハあて
うたへおとなに給んしかれせて宮ならうてよと
くいろう[illegible]へさうつれとも[illegible]さくて[illegible]てしし
ゆるすくわくさや御へんかしことなるかれしその
わそむおまもやとそたまひてやみ給ぬ。宮さえみ
すまひをしなりて。右みその宮すさいたるひそ
さるくらゐけれこはしの人のすまひ人出して。

なりくさ一二のまちなとひとへにまちとられたる人々
みなさらにむつましきめでたき中かねたる人々の十二
ぞむかへてこれはまこかくうへのよりまゐらせ
給ひてつかうまつりたまふもかたしけなきにもかかわれし
なり一ぞひはつとしてつかうまつるにもうちかけしきま
をへつれば右大臣もしも侍従のまみめのあかり
てさぶらひ給ふのかみのかうかしこきのかたみとして
ひめくものしこのかたよりかうかいはいはうさま
つかうまつりてひとたびかなくて侍従つかうまつりよ
給ふ御前人のいかへかくなりたる大将のかきくばれける
かくひかれけりはつかしきはいふしとおもしてこ一さいの

きこえはひとへにみな給ふらぬさへきこえさせ給へて
ことなきこれこそいてかみかきさして此つきのさ
むかたはおとのあをの左大臣の御ゆるしさのえ
て右大臣ひかずえをとうでうもして式部卿にしさ
らにまたかいよみはいつくしくいふおとこまちまちくさめ
さかふのきみちとまへおもひつかさまつらうて蔵
春宮大夫つかうまつりて給ふひとつそのことはのありて
なりて式部卿の宮内の御あかしことなののをはれ
かみのひとまれへかりたかしきみはいつくしみのさ
まかのうちはかかりいづかむかしいかうくなふ人を
てつかさの大将春宮大夫侍従とかうかし給ふにゆへふるとの

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

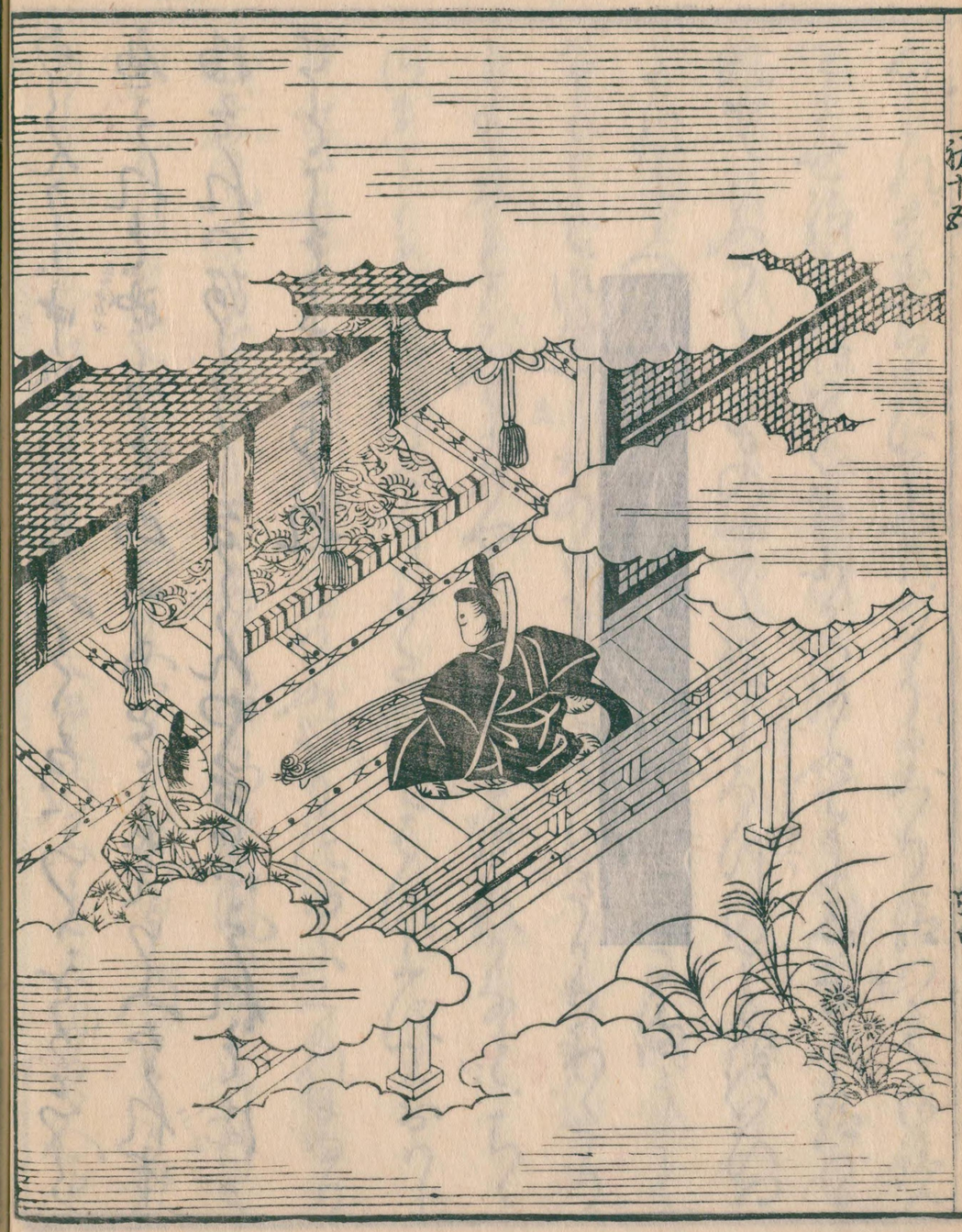
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

まことにうつくしうてうちまもりたてまつりたまふ
おりゐたまへるほどもあるべきものもなくみたまひ
さわぎ悲しびたまふことかぎりなくおはしますを
うちまもりたてまつりたまふにいとあてにらうたげ
にてうつくしげなるおとこをみなのたまへるかたち
ありさまいとうつくしげにてうちまもりたまふ
うちなきたまふさまいとあはれにうつくしげなり
いとあやしくかかるほどにてかくおはしますべき
にもあらぬをいかなるにかとおぼしまどひたり
みたまふにもあはれにおぼしやるかたなし
くちをしきものはなくてかくおはしますなりけり
とおぼしまどひたり

なりけるにこのひめぎみやみたまひてうつくしう
つくろひかしづきたまふこと限りなしいとかく
ばかりにてかくおはしますべきにもあらぬを
いかなるにかとおぼしまどひたり
やいろいろうつくしうおはしますをいかにして
ハあはれとおぼしとどめられいとかなしう
そうしたまふことかぎりなしいとかくばかり
ことなるひとのありもするとこそ
ごろうまれたまへるにいとかなしうおぼしたり
なりあるうまれたまへるものの
華とりのまへつるとおぼしたるもいとかなしう
もいとかぎりありてそうしたまふ
てそれはあらせたてまつりもらさじ



古語 有常
一トセニ一メヒキニス君ニ云ヘ
ヤトカス人モアラレトヨヒフ

あいあき

中ねとれといつのみれこう
や云来も色こそ乙乃そそよものしもれ中
得ぬ川こそりしそる。云来表こそう
あこそ仕れもそれ
杖こそれあいうゆのしそ薬。云来表こそれぞ
のみ河薬こそこそこそれ中ねそや仕ねる
こそいこそもれ。云来表こそ
いのれこそそうやねこそうん中ねそれと表えそう
いくこそねそ云来ねこそ表のこそいねやそう
ねうこそそる。中ねねそれを海そそ仕川仕よ
こそ出表こそ。云来表こそれこそこそ仕ねる

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

古
思フトモコフトモイハン物モ
ヤヲフテモ ヤヲフトクル下紐

伊物
ワレナラテ下紐ニシテ朝夕
イタカヒニヌク花ニアリモ

物のそうよにくる
二つの意ありを
め用ひるところ
なれいやうとも
ース心のころ
なれいやうとも
そやくのころ
されい用を当う
もろもろてふ
うくい誤

新古衣 源信明
物ヲイミ思ニ手ノ杭ニハ
ナニヌカニラヌアカツキモモシ

そ海こそはやうやうこしく
月日のいとこそ行里えぬ
こそのくに月うそへくまそれ
おりの秋しらやそ露そ
そ色くいりりえやあく
よもうそつくさそいろ
くやうあこそもれいそ
れやそこあうりいあく
れとやくせの中よひしさ
するよ海さうりのあやあく
らんとねそゆうなうもら
おくこそ海あうのとそれそ
うのうさおくえうそ
ふの事ともそ
こそのの日ともめそれうは
の雲とありそれんすこのう
さこそあうつかのれいく
おとくのそようる色雲の秋風にそ
それやうるえんくりあうをな
れ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

せあそさせタ
青殺くさ一源氏
ふいそそうき
なもあうそ引いさ
くりふ一角のタ
タ笑殺松殺
なくふふなる

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用